

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達教育学科
科目名 ※	人間と道徳	単位数 ※	講義 2単位
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	金曜・1時限
キャンパス ※	小倉キャンパス	教室 ※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>1.さまざまな価値観が複雑に絡まりあっている社会において、多角的・批判的な思考ができるようになる。</p> <p>2.正義や道德心を守るために、自分が所属する仲間や組織の同調圧力に安易に流されず、自律的な考えができるようになる。</p> <p>3.ひとつのものごとを深く探求し、自分の考えを的確に表現できるようになる。</p>		
授業内容 授業形態	<p>第1回 ガイダンス「あなたは正義のために自分の所属する組織を裏切ることができるか」(目標2・3)</p> <p>第2回 「なぜ人を殺してはいけないか」(目標1・3)</p> <p>第3回 「いじめ考～あなたはいじめを止められるか」(目標2・3)</p> <p>第4回 なぜ児童虐待は増え続けているのか(目標2・3)</p> <p>第5回 子どもの貧困と少年犯罪(目標1・3)</p> <p>第6回 高齢者介護に家族はどこまで責任があるか(目標2・3)</p> <p>第7回 「狙われる高齢者」を若者の視点からどう考える(目標1・3)</p> <p>第8回 死は誰のものか(目標1・3)</p> <p>第9回 医療ケア児の幸福論(目標1・3)</p> <p>第10回 代理母論～あなたは他人のために子どもを産めるか(目標1・3)</p> <p>第11回 年金は若者にとって不公平か(目標1・3)</p> <p>第12回 違法薬物は犯罪か、治療の対象か(目標1・3)</p> <p>第13回 重度障害者は社会を不幸にするか、社会にとって必要か(目標1・3)</p> <p>第14回 人は何のために働くのか(目標1・3)</p> <p>第15回 まとめ「これからの多様性社会に徳育が必要な理由」(目標1・2・3)</p>		
評価方法 ※	毎回の授業の振り返り(80%)、最終レポート(20%)		
評価基準	<p>1.さまざまな価値観が複雑に絡まりあっている社会において、多角的・批判的な思考ができるようになったかどうか。</p> <p>2.正義や道德心を守るために、自分が所属する仲間や組織の同調圧力に安易に流されず、自律的な考えができるようになったかどうか。</p> <p>3.ひとつのものごとを深く探求し、自分の考えを的確に表現できるようになったかどうか。</p>		

テキスト	「弱さを愛せる社会へ～分断の時代を超える『令和の幸福論』」（野澤和弘著、中央法規 ISBN978-4-8050-8945-9）を教科書とする。
注意事項	授業はオンラインで行う。質問などは授業の最後に受ける。あるいはメール（k-nozawa@uekusa.ac.jp）で受け付ける。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名※	東南アジア政治経済論 I	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	金曜日 1時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p>< 授業の概要 > 本講義では、東南アジア地域および各国における政治経済の現状と、それぞれが抱える問題を理解することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材を養成することを目的とする。</p> <p>< 授業の目的と到達目標 > 東南アジア地域および各国に関する基本知識、それらの歴史的背景、そして政治経済の現状と、現在抱える問題を理解する。</p>		
到達目標			
授業内容	第1回イントロダクション: 東南アジアというまとまりと、その国々 第2回ミャンマー (ビルマ) 第3回タイ 第4回ベトナム 第5回カンボジア、ラオス 第6回フィリピン 第7回マレーシア、シンガポール、ブルネイ 第8回インドネシア 第9回東チモール 第10回冷戦下の東南アジア 第11回ASEANの発展 第12回東南アジアの対外関係 第13回東南アジアの人権問題 第14回東南アジアの紛争 第15回まとめと今後の課題		
授業形態※	対面		
評価方法※	筆記試験		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	現代イベリア研究 I	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	金曜日 1時限
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>①授業のテーマと概要：本科目は21年度から開始した新設科目です。この授業では、時代を18世紀後半から20世紀・1939年のスペイン内戦の終了までに限定して、イベリア両国の政治経済の歴史の理解を深めます。国民国家を扱う以上、時代を18世紀後半から現代までに限定し、さらに政治経済の側面に注目する点がイベリア史概論と異なります。</p> <p>②授業の目的と到達目標：</p> <p>A：スペイン・ポルトガルの歴史の展開がイベロアメリカ諸国とどう共通し、どのように異なるかを理解する。(DP-3)</p> <p>B：他の欧州諸国やアフリカとの交流や相克を広範なスケールで理解する。(DP-3, 4)</p> <p>C：イベリア諸国の動きを通して、農業社会・工業社会・情報社会へと移行する文明的な見方や、多文化との共生・反発の歴史を理解する。(DP-1, 4)</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回【講義】イントロ：①スペイン・ポルトガルに関するアンケートを行う。②そのあと、イベリア半島の地政学的位置を明らかにする。</p> <p>【予習】2時間。イベリア諸国のイメージ、自分の知見を整理しておく。</p> <p>【復習】2時間。地政学が何であることを確認する。</p> <p>第2回【講義】18世紀啓蒙主義時代のイベリア諸国：カルロス三世とポンバル侯爵による産業育成と教育改革</p> <p>【予習】2時間。イベリア両国の貿易状況をまとめておく。</p> <p>【復習】2時間。経済の自由化、宗教の寛容が何であることをまとめる。</p> <p>第3回【講義】19世紀ナポレオン戦争時代：ナポレオンのイベリア半島侵入；自由主義憲法としてのカディス憲法制定。</p> <p>【予習】2時間。ナポレオンの人物像と業績を調べる。</p> <p>【復習】2時間。自由主義とは何であることをその特徴を把握する。</p> <p>第4回【講義】19世紀イベロアメリカ諸国の独立と旧宗主国への影響：リエゴの反乱；ポルトガル国王の帰国とブラジル独立。</p> <p>【予習】2時間。「リエゴ賛歌」について調べる。</p> <p>【復習】2時間。ブラジルの独立の経緯を整理する。</p> <p>第5回【講義】19世紀イベリア諸国で並行する内乱：カルリスタ戦争とミゲリスタ戦争</p> <p>【予習】2時間。サリカ法典について調べる。</p> <p>【復習】2時間。両内戦の共通する特徴を把握する。</p> <p>第6回【講義】19世紀スペインの第一共和政</p> <p>【予習】2時間。これと同時代的に生じた明治維新の背後にある思想を調べておくこと。</p> <p>【復習】2時間。カステラールの思想についてまとめる。</p>		

<p>授業内容</p>	<p>第7回【講義】 19世紀スペインの王政・復古：穏健な王政と二大政党体制の成立。 【予習】 2時間。カノバスの人物像を調べておくこと。 【復習】 2時間。二大政党制の意義と限界をまとめる。</p> <p>第8回【講義】 19世紀イベリア両国の工業発展と都市化の進展。 【予習】 2時間。エッフェル塔で有名なエッフェルによる建築物を調べる。 【復習】 2時間。スペインにあるビルバオとバルセロナの工業化をまとめる。</p> <p>第9回【講義】 1898年米西戦争の帰趨とポルトガルのアフリカ植民地構想 【予習】 2時間。フィリピン、キューバの当時の政情を調べておく。 【復習】 2時間。ポルトガルと英国との緊張をまとめておく。</p> <p>第10回【講義】 1910年のポルトガル革命：理念先行、現実を置き去りにした憲法発布 【予習】 2時間。メキシコ革命やロシア革命の理念を調べておく。 【復習】 2時間。ポルトガル革命の脆弱性をまとめる。</p> <p>第11回【講義】 1910年代と20年代のイベリア諸国の混乱 【予習】 2時間。エサ・デ・ケイロス著「アマロ神父の罪」によりポルトガル社会の状況を調べておく。 【復習】 2時間。スペインと北モロッコとの抗争を整理しておく。</p> <p>第12回【講義】 1920年代のスペイン独裁者プリモ・デ・リベラ：汎欧州的なファシズムの動向 【予習】 2時間。イタリアの独裁者ムッソリーニの思想と行動を調べる。 【復習】 2時間。プリモ・デ・リベラによる産業振興策の全体像をまとめる。</p> <p>第13回【講義】 スペイン内戦（1936から39年）と授業のまとめ：人民戦線と国民戦線との抗争；フランコ・サラザール体制の成立。 【予習】 2時間。フランスやチリでの人民戦線の実情を調べる。 【復習】 2時間。スペインにおける対立のポイントを整理しておく。</p> <p>第14回【講義】 19世紀カタルーニャにおける”文化復興”運動 【予習】 2時間。カタルーニャ語の特徴を調べる 【復習】 2時間。カタルーニャ復興運動の特色を整理する</p> <p>第15回【講義】 ポルトガルの独裁者サラザールとグルベンキャン。まとめ 【予習】 2時間。オスマントルコにおけるアルメニア人の位置づけを調べる 【復習】 2時間。グルベンキャンの文化活動をまとめる</p>
<p>授業形態※</p>	<p>対面</p>
<p>評価方法※</p>	<p>期末レポートをはじめ数回のレポート70%、授業発表貢献点30%の割合で合算して成績を出す。レポートは講評を行います。</p>
<p>評価基準</p>	
<p>テキスト</p>	
<p>注意事項</p>	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
<p>授業シラバス</p>	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	日本語学	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	金曜・1限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	日本語社会におけるコミュニケーションに特徴的に見られる現象を取り上げ、言語と社会の関わりを理解します。日本語教師として必要な知識を単に詰め込むのではなく、自分が使用している日本語を客観的に観察し、練習問題にも取り組みます。そして、ことばに関わる文化的背景についても理解を深めることで、受講者一人一人が、今後、世界のさまざまな言語、多様な文化を見つめるための土台を培っていきます。		
到達目標			
授業内容 授業形態 ※	副専攻日本語教員養成課程の必修科目ですので、受講者は日本語教育やコミュニケーションに関心のあることが前提です。教科書とワークシートを使用し、「知っていること」「習ったこと」を活かしながら、段階的に積み上げて理解していきます。毎回、講義後には小テストで確認を行い、学んだ内容を確実に身につけていきます。 授業は対面形式ですが、オンデマンド授業を併用することもあります。		
評価方法 ※	授業への取り組み(発言、受講態度、提出物、小テスト)、確認試験		
評価基準	授業への取り組み(発言、受講態度、提出物、小テスト)で60%、確認試験40%の割合で評価します。		
テキスト	佐々木泰子(編)(2007)『ベーシック日本語教育』ひつじ書房 石黒圭(2013)「日本語は「空気」が決める 社会言語学入門」光文社新書		
注意事項	本科目は「日本語教員養成課程」「日本語学習支援者養成プログラム」必修科目です。		
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名※	社会福祉論	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度 前学期	曜日・時限 ※	金曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-301
学修分野			
授業目的※	誰もが社会福祉と無関係ではない。なぜなら、誰もが日々関わるさまざまな社会関係のなかで生じた「関係の不調」を社会福祉は対象とするからである。社会福祉分野で注目される考え方の基礎的な理解に込められた人間観・社会観を学習する。さらに受講生が自らの「コミュニティ政策学」の視点を育てるために、一助とすることも合わせて目的とする。		
到達目標	①社会福祉の人間観・社会観を理解する。②自らも社会福祉と無関係ではないことを理解する。③「コミュニティと社会福祉」に関する自分なりの問題意識を育む。		
授業内容	(1) 社会福祉のしくみ、(2) 障害の社会モデル、(3) 伴走型支援、(4) 「当事者研究」、(5) 社会関連諸制度の概要(年金保険、介護保険、医療保険等)を理解する		
授業形態※	基本的に講義形式で行うが、その中にアクティブラーニングの手法を導入し、福祉福祉の諸課題についての学生の主体的参加や能動的学習を重視した授業を実施する。また、DVDやビデオ等の映像資料を参考に、現実の社会問題について学び、課題や解決策をレポートする。		
評価方法※	①ほぼ毎回の授業での学びをまとめた「リアクションペーパー」、②7回程度の「小レポート」(事前・事後学習)の質により総合的に評価する。なお、出席に関して、(1)学生証を忘れた場合のメモによる出席は2回まで(3回目からは不可)。また基本的に6回以上欠席者のみ15回終了後にデータを「出席」に修正。(2)本人の出席カードタッチミスや確認漏れによる「出席」修正はできない		
評価基準	小レポート100点(20点×3回+10点×4回)		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	事前・事後学習をおこなうこと。参考文献を精力的に読んでみる。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達教育学科
科目名※	心理学	単位数 ※	講義 2単位
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	金曜・2時限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学に関する基礎的な知識について理解し、その概要を説明できる。 2. 身近な心理的問題について理解し、自分の考えを述べることができる。 3. 心理学的な知識を、自分の心の働きを考えるために活用できる。 		
授業内容 授業形態※	第1回 授業ガイダンス・心理学の起源(目標1) 第2回 感覚・知覚(目標1,2) 第3回 記憶(目標1,2) 第4回 脳研究と心理学(目標1,3) 第5回 学習(目標1,2,3) 第6回 無意識と精神分析(目標1,3) 第7回 動機づけ(目標1,2,3) 第8回 発達と発達理論(目標1,2,3) 第9回 パーソナリティ(目標1,2,3) 第10回 社会(対人認知・態度変容)(目標1,2,3) 第11回 集団の心理(目標1,2,3) 第12回 心理学の研究方法(目標1,3)第13回 第13回 心理学と哲学(目標1) 第14回 ストレスと精神的健康(目標1,3) 第15回 心理的問題とその援助(目標1,3)		
評価方法※	授業への参加態度、提出物の提出の有無と内容、期末試験の結果などから総合的に評価する。 授業の参加態度と提出物の記入内容 30%程度、期末試験 70%程度		
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学に関する基礎的な知識について理解し、その概要を説明できること。 2. 身近な心理的問題について理解し、自分の考えを述べるができること。 3. 心理学的な知識を、自分の心の働きを考えるために活用できること。 		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項	全15回を、Googleクラスルームを活用したオンデマンド授業（遠隔授業）とします。		
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名※	国際経済学Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	金-2
キャンパス※		教室※	2-201
学修分野			
授業目的※	<p>貿易を通じた商品・サービスの取引や、海外への投資が増大することによって経済のグローバル化が進み、日本経済も世界各国の経済動向に大きく影響を受けています。そして、国境を越えた取引の拡大は国際分業をさらに深化させ、一国経済の動向が世界中に波及するリスクもさらに高まっています。本講義で扱う国際経済論の基礎理論を学ぶことで、国際取引を通じた世界経済と日本経済の相互依存関係について理解し、議論する力を養います。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>①国際貿易論と国際金融論の基礎を身につけ、世界経済の分析視点を理解することで、経済のグローバル化について正しく理解し、今後の課題について統計的な根拠を用いながら議論する力を養う</p> <p>②データや資料を通じて、日本経済がいかに世界経済とリンクしているかを説明することができる。</p> <p>③国際経済に関するさまざまな問題について、経済学的な観点から自分の意見を述べることができる。</p>		
授業内容	<p>1回目 グローバル化と日本経済</p> <p>2回目 国際収支表</p> <p>3回目 国際収支とマクロ経済</p> <p>4回目 国際収支と貿易、為替レート</p> <p>5回目 為替レートと物価</p> <p>6回目 為替レートと景気</p> <p>7回目 貿易と為替レート</p> <p>8回目 貿易の利益</p> <p>9回目 貿易と比較優位</p> <p>10回目 産業間貿易と産業内貿易</p> <p>11回目 国際貿易のルール</p> <p>12回目 サービス貿易</p> <p>13回目 地域貿易協定</p> <p>14回目 コロナ禍における貿易</p> <p>15回目 事例研究</p>		

授業形態※	対面
評価方法※	試験（持込不可）：95% 課題：5% 出席は毎回取りますが、出席点自体で得点を加算することはありません。 なお、課題に対しては授業内で全員に対するフィードバックを行います。
評価基準	
テキスト	指定なし。ただし、参考書に記載されているテキストをメインに用います。 【参考書】 熊倉正修著『日本のマクロ経済政策: 未熟な民主政治の帰結』岩波新書、2019年
注意事項	「経済学入門I」「経済学入門II」の単位を取得していること、そして学習した内容をしっかり理解していることが本科履修の条件です。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	憲法	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	金曜 2限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	本講義は、憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。		
到達目標	到達目標は憲法の原理や考え方を正しく理解し説明できることです。		
授業内容 授業形態 ※	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門を併せて履習することが望ましいです。毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。 対面形式		
評価方法 ※	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
評価基準			
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	認知発達と英語教育A	単位数 ※	4
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜日 4時限 金曜日 3時限 (2コマセットの授業)
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>①授業のテーマと概要</p> <p>本講座は、ことばの習得において重要な役割を担う乳幼児期・児童期に、「子どもの認知と言語がどのように発達するか」を学ぶ。</p> <p>授業では、認知と言語の発達に関する種々の側面（概念の形成、語彙の発達、脳の機能と発達、文法の理解の発達、発達障害、心の理論など）を科学的な研究に基づいて学ぶ。さらにPiagetの発達理論やVygotskyの社会文化理論などの諸理論より、学習がどのように成立するか学ぶ。</p> <p>②授業の目的と到達目標</p> <p>本講座において学生は、以上の認知発達の過程と特徴、および、子どもの心理と言語習得に関する知識を修得すると同時に、これらの知識をどのように英語教育の指導方法や指導技術に応用できるかをともに考える。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回クラスの紹介</p> <p>第1章 枠組みと方法</p> <p>子どもの発達に関する重要な課題や疑問、また発達研究において用いられる主な行動学的・神経生理学的方法について学ぶ。</p> <p>第2回第1章 枠組みと方法</p> <p>子どもの発達に関する重要な課題や疑問、また発達研究において用いられる主な行動学的・神経生理学的方法について学ぶ。</p> <p>第3回第2章 理論と方法</p> <p>ロックやルソーの発達理論を学ぶ。またピアジェの発達の見方とヴィゴツキーの発達の見方の主要な点を学ぶ。さらに、愛着理論と動物行動学におけるその起源について、また、神経構成主義と、ウィリアムズ症候群のような発達障害が神経構成主義の枠組みの中でいかに理解できるかについて学ぶ。</p> <p>第4回第2章 理論と方法</p> <p>ロックやルソーの発達理論を学ぶ。またピアジェの発達の見方とヴィゴツキーの発達の見方の主要な点を学ぶ。さらに、愛着理論と動物行動学におけるその起源について、また、神経構成主義と、ウィリアムズ症候群のような発達障害が神経構成主義の枠組みの中でいかに理解できるかについて学ぶ。</p> <p>第5回第3章 乳幼児期への導入</p> <p>胎児期の発達と母親の影響、早産の長期にわたる認知的影響、早期の運動能力、生後1週間の赤ちゃんの知覚について学ぶ。</p>		

授業内容

第6回第4章 乳児期の認知発達

乳児の対象のカテゴリー化の発達、初期の認知発達について学ぶ。

第7回第5章 初期の言語発達

言語発達が乳児の誕生前から始まっていること、乳児の音素認識について、喃語の段階、初期の言語発達と社会的文脈、語の認識、乳児の語彙の測定法などを学ぶ。

第8回第5章 初期の言語発達

言語発達が乳児の誕生前から始まっていること、乳児の音素認識について、喃語の段階、初期の言語発達と社会的文脈、語の認識、乳児の語彙の測定法などを学ぶ。

第9回第6章 乳児期における社会的、情動的発達

ここでは他者との関係が認知や言語的発達へばを提供するとともに、社会的、情動的発達に重要であることを学ぶ。乳児期に起こっていることは個々の生涯を通して起こることに影響することを学ぶ。具体的には、乳児の顔の認識能力とその重要性、早期の発達における模倣の役割、愛着について学ぶ。

第10回第6章 乳児期における社会的、情動的発達

ここでは他者との関係が認知や言語的発達へばを提供するとともに、社会的、情動的発達に重要であることを学ぶ。乳児期に起こっていることは個々の生涯を通して起こることに影響することを学ぶ。具体的には、乳児の顔の認識能力とその重要性、早期の発達における模倣の役割、愛着について学ぶ。

第11回第7章 就学前期への導入

2歳から6歳の脳の発達と身体的、精神的発達、運動能力の主な変化、描画能力の発達について学ぶ。

第12回第7章 就学前期への導入

2歳から6歳の脳の発達と身体的、精神的発達、運動能力の主な変化、描画能力の発達について学ぶ。

第13回第8章 就学前期の認知能力

就学前期におけるピアジェの認知発達に関する考え、推理や問題解決の発達とそれらの測定方法・課題、見かけと現実の区別の発達、心の理論の発達と自閉スペクトラムとの関係について学ぶ。

第14回第8章 就学前期の認知能力

就学前期におけるピアジェの認知発達に関する考え、推理や問題解決の発達とそれらの測定方法・課題、見かけと現実の区別の発達、心の理論の発達と自閉スペクトラムとの関係について学ぶ。

第15回第9章 就学前期における言語発達

内側から外への言語発達理論と外側から内への言語発達理論、チョムスキーとピンカーの生得理論、文法的発達と子どもが受ける言語入力との関係について、過大規則化の誤りと、それがなぜ言語発達の理論において重要であるか、早期の文法理解を理解するための選好注視法、特異的言語発達障害の主な特徴などについて学ぶ。

第16回第9章 就学前期における言語発達

内側から外への言語発達理論と外側から内への言語発達理論、チョムスキーとピンカーの生得理論、文法的発達と子どもが受ける言語入力との関係について、過大規則化の誤りと、それがなぜ言語発達の理論において重要であるか、早期の文法理解を理解するための選好注視法、特異的言語発達障害の主な特徴などについて学ぶ。

授業内容

第17回第10章 就学前期の社会性と情動の発達

就学前期の子どもの友達関係の発達と良好な相互交渉の基礎となる重要なスキルについて、性差について気づき、自己理解、ふり遊びの発達の意義などについて学ぶ。

第18回第11章 児童中期への導入

運動技能の発達と行動の性差、脳の発達過程、注意欠如多動性（ADHD）の主要な特性と診断方法、発達性協調運動症（DCD）の特性とそれを持つ子どもの動きの計画の困難さについて学ぶ。

第19回第12章 児童中期の認知発達

ピアジェの具体的操作的推理、ワーキングメモリの変化、数的処理を学ぶときに直面する課題、計算障害の特徴、数学的能力の文化間の差について学ぶ。

第20回第12章 児童中期の認知発達

ピアジェの具体的操作的推理、ワーキングメモリの変化、数的処理を学ぶときに直面する課題、計算障害の特徴、数学的能力の文化間の差について学ぶ。

第21回第12章 児童中期の認知発達

ピアジェの具体的操作的推理、ワーキングメモリの変化、数的処理を学ぶときに直面する課題、計算障害の特徴、数学的能力の文化間の差について学ぶ。

第22回第13章 読み書き能力（リテラシー）

子どもはどのように読みを学ぶかを決める主要な要因、記号解読スキルと読みの理解の違い、書体によって読みの困難度が違う理由、子どもが文字を綴るときに用いる方法、発達性ディスレクシアの特徴と読みの理解の障害との違い、手書きの困難さが学校での学習に影響する理由などについて学ぶ。

第23回第13章 読み書き能力（リテラシー）

子どもはどのように読みを学ぶかを決める主要な要因、記号解読スキルと読みの理解の違い、書体によって読みの困難度が違う理由、子どもが文字を綴るときに用いる方法、発達性ディスレクシアの特徴と読みの理解の障害との違い、手書きの困難さが学校での学習に影響する理由などについて学ぶ。

第24回第13章 読み書き能力（リテラシー）

子どもはどのように読みを学ぶかを決める主要な要因、記号解読スキルと読みの理解の違い、書体によって読みの困難度が違う理由、子どもが文字を綴るときに用いる方法、発達性ディスレクシアの特徴と読みの理解の障害との違い、手書きの困難さが学校での学習に影響する理由などについて学ぶ。

第25回第14章 児童中期の社会性と感情性の発達

友人関係の発達、「公正」「悪意」の考え方の発達、ピアジェとコールバーグによる道徳性の発達、「感情表現ルール」の意味と、非社会的状況に対する子どもの反応の変化、性役割（ジェンダー）の発達について学ぶ。

第26回第15章 青年期の導入

青年期を通じての脳の発達変化と、青年期特有の行動との関係、青年期の行動に及ぼす文化の影響について学ぶ。

第27回第16章 青年期の認知発達

ピアジェの形式的操作的推理、道徳的推理、青年期の実行機能の発達とその大脳の発達との関係について学ぶ。

授業内容	第28回第17章 青年期の社会的、情動的発達 青年期の道徳的判断は社会・文化的要因にどのように影響されるか、青年期の家族・友人との関係の重要性、愛着の長期にわたる成り行き、攻撃性といじめの型の性差、家族・親の役割について学ぶ。
授業形態※	第29回全体の振り返り 課題の確認 第30回期末テスト、その他 対面
評価方法※	期末テスト40% レポート 30% 宿題 30%
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	法学	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	金曜 3限
キャンパス ※	稲毛キャンパス	教室 ※	—
学修分野			
授業目的 ※	社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論、用語の学習を通して法律学(法学)への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方(legal mind)を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします。		
到達目標	それは、今日、とくとくと流れる国際社会のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習に他なりません。到達目標はこれらのことを理解し日々の生活にいかせることです。		
授業内容 授業形態 ※	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開します。毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。 対面形式		
評価方法 ※	平常点、確認試験で評価します。		
評価基準	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名※	米国政治・外交論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	金曜日 4時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p><授業の概要></p> <p>本授業の目的は、アメリカの政治・外交について理解を深めるものである。「米国政治・外交論Ⅰ」では17世紀の建国期から太平洋戦争までの期間を扱い、歴史学、国際政治学の観点からアメリカの政治・外交について考察する。具体的に受講生は①アメリカのナショナリズムと政治の理念（デモクラシー、リベラリズム）、②帝国主義、③モンロー主義、以上3つの概念について、講義、リーディング課題、プレゼンテーション、ディスカッションを通して関心と理解を広げ、深めていく。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカのナショナリズムと政治の根幹にあるデモクラシー、リベラリズムについて、憲法・法律や外交の観点から説明することができる。 2. アメリカの帝国主義について、国際政治、資本主義、文化・宗教といった多角的な視点から論じることができる。 3. アメリカ外交のキーワードの1つであるモンロー主義について、歴史学・国際政治学の観点から説明することができる。 		
到達目標			
授業内容	<p>第1回イントロダクション</p> <p>第2回建国外交</p> <p>第3回国際戦争の進行とアメリカ外交</p> <p>第4回【オンライン】課題</p> <p>第5回対英戦争終結とモンロー主義</p> <p>第6回西部への発展と日米外交の黎明</p> <p>第7回19世紀後半のアメリカ外交</p> <p>第8回帝国主義外交の展開</p> <p>第9回ウィルソン外交と第一次世界大戦</p> <p>第10回戦争とアメリカニズム</p> <p>第11回1920年代のアメリカ外交</p> <p>第12回F・D・ルーズベルトの外交</p> <p>第13回戦間期のアメリカ</p> <p>第14回太平洋戦争</p> <p>第15回総括</p>		
授業形態※	対面		

評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加（リーディング、プレゼンテーション、ディスカッション、授業内での発言等）：40ポイント ・ 小テスト、課題：30ポイント ・ 最終レポート：30ポイント 合計：100ポイント
評価基準	
テキスト	
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名 ※	工業簿記Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	金-4
キャンパス ※		教室 ※	308
学修分野			
授業目的 ※	<p>工業簿記は、製造業において適用される簿記です。製造業では、外部から購入した原材料、労働力および機械設備などを製造過程に投入し、製品を製造、それを販売することにより利益を獲得しています。つまり、商業簿記が対象とする商品売買業で行われる購買活動と販売活動以外に、主たる経営活動として製造活動が行われます。</p> <p>本講義では、製造活動の記録・計算を中心に工業簿記の基礎的な内容、具体的には、費目別計算、部門別計算および製品別計算（個別原価計算）の計算と記帳を学習します。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【(知識、技能)】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>「工業簿記Ⅱ」とあわせ、日商簿記2級の範囲を学習することにより、日商簿記2級と同レベルの知識・技術を身につけることができる。</p> <p>なお、本講義(「工業簿記Ⅰ」)では、費目別計算、部門別計算の学習を通じ、個別原価計算の日商簿記2級レベルの知識・技術を身につけることができる。</p>		
授業内容	<p>第1回 工業簿記の基礎 第2回 工業簿記の勘定連絡 第3回 材料費の計算①－材料費の分類と購入原価の計算 第4回 材料費の計算②－材消費額の計算 第5回 労務費の計算①－労務費の分類と支払賃金の計算 第6回 労務費の計算②－消費賃金の計算 第7回 経費の計算 第8回 中間テスト、費目別計算の復習 第9回 製造間接費の計算①－実際配賦 第10回 製造間接費の計算②－予定配賦 第11回 部門別計算－部門の意義、第1次集計及び第2次集計 第12回 単純個別原価計算 第13回 部門別個別原価計算 第14回 個別原価計算の総合問題 第15回 総合原価計算の基礎</p>		
授業形態 ※	対面		

評価方法※	<p>期末試験70%、中間テスト30%の加重平均により評価します。</p> <p>中間テストは採点後に返却し、解説を行うことにより、受講者の理解を深めます。</p>
評価基準	
テキスト	<p>『合格テキスト日商簿記 2級工業簿記 Ver.10.0』 TAC出版</p> <p>『合格トレーニング日商簿記 2級工業簿記 Ver.10.0』 TAC出版</p>
注意事項	<p>①授業は、商業簿記の知識を前提として進めるため、商業簿記の基礎的な知識が必要です。</p> <p>②電卓を毎回持参してください。</p>
授業シラバス	<p>https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達教育学科
科目名 ※	人間関係論	単位数 ※	講義 2 単位
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	金曜・6 時限
キャンパス ※	小倉キャンパス	教室 ※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.様々な人間関係のあり方について理解する。 2.様々な組織や集団における人間関係の特徴を理解する。 3.人間関係で予想されるトラブルを理解し、学んだ知識を活用して解決法を考えることができる。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 印象・対人認知の仕組み(目標1)</p> <p>第2回 対人魅力の規定要因・親密性(目標1)</p> <p>第3回 対人コミュニケーション・非言語的コミュニケーション(目標1)</p> <p>第4回 説得(目標1,3)</p> <p>第5回 集団と個人(目標1,2,3)</p> <p>第6回 集団による問題解決(目標2,3)</p> <p>第7回 攻撃行動・暴力(目標1,3)</p> <p>第8回 虐待(目標1,3)</p> <p>第9回 性格と自己理解(目標1)</p> <p>第10回 家族における人間関係(目標1)</p> <p>第11回 友人関係と恋愛関係(目標1)</p> <p>第12回 子どもの人間関係・学校での人間関係(目標1)</p> <p>第13回 人間関係の構築に役立つ方法(目標1,3)</p> <p>第14回 自己と他者の双方を尊重する自己主張の方法(目標3)</p> <p>第15回 インターネットに関わる交流(目標1,3)</p>		
評価方法 ※	授業への参加態度，提出物への記入内容，期末試験の結果などから総合的に評価する。 授業態度・提出物の記入状況30%程度，期末試験 70%程度		
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1.様々な人間関係のあり方について理解し，概要を説明できること。 2.様々な組織や集団における人間関係の特徴を理解し，概要を説明できること。 3.人間関係で予想されるトラブルを理解し、学んだ知識を活用して解決法を検討できること。 		

テキスト	書籍名 ワークショップ 人間関係の心理学 著者名 藤本忠明・東正訓 出版社 ナカニシヤ出版 価格 2000 ISBN 978-88848-833-4
注意事項	全15回を、Googleクラスルームを活用したオンデマンド授業（遠隔授業）とします。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項